

シンポジウム 新たな感染症危機にいかに備えるか
～国民の生命・健康と生活・経済の両立を目指して～

基調講演

パンデミックと行動計画

国立感染症研究所
感染症危機管理研究センター長
齋藤 智也

パンデミックの歴史

- 1918年 スペインインフルエンザ
- 1957年 アジアインフルエンザ
- 1968年 香港インフルエンザ
- 2009年 2009年パンデミックインフルエンザ
- 2019年 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）



危機管理のサイクル (感染症の例)

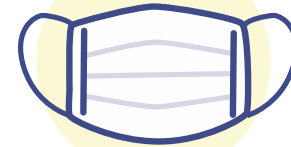
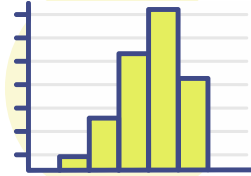
予防 / 予知・探知

サーベイランス

予防接種

注意喚起

啓発



発災

プリアドネス (事前準備)

医療提供体制構築

訓練

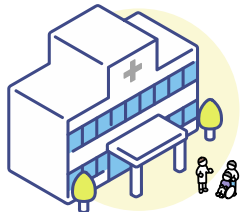
演習

備蓄

行動計画等作成

対応レビュー

フィードバック



被害抑制

検疫強化

積極的疫学調査

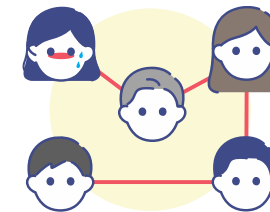
医療提供

接触者対策

学校閉鎖

消毒

リスコミ(クライシス・コミュニケーション)



終息

(対応終了)

パンデミック対策と行動計画・ガイドライン

- 2005年 新型インフルエンザ対策行動計画
- 2006年 インフルエンザ（H5N1）に関するガイドライン—フェーズ3—
- 2007年 インフルエンザ（H5N1）に関するガイドライン—フェーズ4以降—
- 2009年 新型インフルエンザ対策ガイドライン
- 2013年 新型インフルエンザ等政府対策行動計画
新型インフルエンザ等対策ガイドライン

議論と改訂を繰り返しながら記載を充実させてきた。

2009年パンデミック経験後の 政府行動計画の考え方

- どのような新型インフルエンザが発生するかはわからない
 - さまざまな感染性、病原性の可能性を想定
 - 網羅的にやるべきこと、考えるべきことを記載した「メニュー表」



計画の柔軟性を確保

COVID-19対応で 政府行動計画は役立っていたのか？

- ほぼ**新型インフルエンザ**を想定した計画
- 過去事例の“**過学習**”
 - 早期に性質やリスクが見極められ、リスクが比較的早期に社会に受容されることを前提

👉 現れたのは新型コロナウイルス

👉 感染性や感染様式、疾患スペクトラム等について知見なし
→リスクの見極めに時間を要する

👉 ワクチンも薬も無く、医療体制を上回る感染爆発のリスク
→リスクを受容できない状況が継続

新・政府行動計画に望む8つの視点

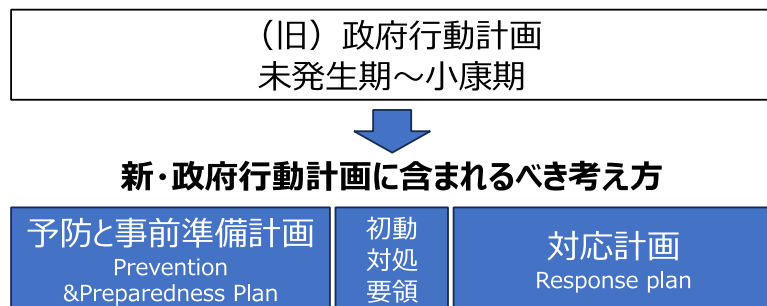
1. リスクランドスケープの精査

- 過去の事例の過学習(over fitting)に注意
- 病原体群に対する計画、病原体別の計画を

2. 平時も有事も読んでもらえる行動計画

- 備えていることを知らなければ備えていないと同じ

3. 予防・事前準備計画と対応計画で構成



4. 次のパンデミックであるべき姿を明確に

- 「あるべき姿 (ビジョン)」から逆算した事前準備計画を

5. 「情報提供と共有」から 「コミュニケーション計画」へ

- フェーズに応じたコミュニケーション計画を
- 感染対策は市民の協力が鍵
 - 平時の感染症予防活動に学ぶ

6. データ取得計画の策定

- より行動制限の少ない対策を行うために
- 病原体・疾病の性質、感染動態の解明
- 発生状況の把握とリスク評価
- 公衆衛生・社会対策の効果のモニタリングと評価
- 平時からのメカニズム構築が不可欠

7. 事前準備と初動対処の資金計画

- 中長期的な事前準備の強化
- 円滑な初動

8. 脆弱な人々を守る

- 最も影響を受ける人々を支える

リスクランドスケープの精査

- 過去の事例の過学習(over fitting)に注意
 - COVID-19の経験に引きずられないよう特に注意
 - 特に訓練・演習
- パンデミック対応共通の計画 + 病原体群に対する計画 + 病原体別の計画を

リスクランドスケープ：今後のパンデミックのリスクについての全体展望

予防・事前準備計画と対応計画の明確化

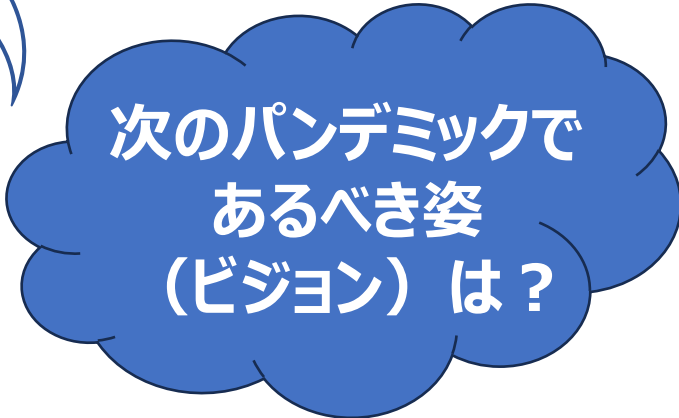
・予防・事前準備計画

- ・パンデミックの予防：発生リスクを下げるには？
- ・事前準備：対応のために中長期的に何を行うのか？

逆算（バックキャストिंग）

・対応計画

- ・（事前準備に基づき）どのように対応するか？



次のパンデミックで
あるべき姿
（ビジョン）は？

「情報提供と共有」から「コミュニケーション計画」へ

- フェーズに応じたコミュニケーション計画を
 - 危機のフェーズに応じて情報の内容や発信方法を工夫しながら計画的にコミュニケーションを行う戦略的な視点を
- 感染対策は市民の協力が鍵
- 平時の感染症予防活動に学ぶ

データ取得計画の策定

- より行動制限の少ない対策を行うために
 - 病原体・疾病の性質、感染動態の解明
 - 発生状況の把握とリスク評価
 - 公衆衛生・社会対策の効果のモニタリングと評価
- 平時からのメカニズム構築が不可欠

脆弱な人々を守る

- 生活環境の良くない場に置かれた方々、生活基盤の脆弱な方々により大きな影響
 - 感染対策を徹底することが難しい環境であることも
- 最も影響を受ける人々を支えるメカニズムが、社会全体への影響を緩和するためにも、対策を効果的に行う上でも不可欠

平時も有事も読んでもらえる行動計画

- **危機管理訓練・演習の教訓**

1. 計画を読んでおくこと
2. 計画を読んでおくこと
3. 計画を読んでおくこと

- **備えていることが知られていなければ、備えていないと同じ**

おわりに

- パンデミック対策は市民すべての協力が鍵
- パンデミックを見据えて平時の感染症対策に学ぶ
- 平時の対策の底上げでパンデミック時の選択肢を増やす
- 「過去問型」危機管理にならないように